

「望み！！」

～あなたはどうなりたいですか？～

ローマ8：18-30

■ あなたには望みがありますか？

聖書の中には戦いや苦難の中にあっても望みを抱き生き、望みを捨てて生きた人の人生が書かれています。そして、望みに生きた人には祝福が、そうでなければ滅びが約束されました。しかし神様は私たち人間を愛しておられ、滅びを選んだ人が滅びないようにイエス様をこの地に送ってくださいました。イエス様の犠牲、神様の愛を知っている私たちは聖書から何を受け取ったらよいのでしょうか。それはあなたが神様から愛されていることを確信し、本当の自分の姿に戻ることです。いろいろな問題にぶつかるとき、あなたは人のせいにするのではなく、解決を神様に委ねることができているのでしょうか。そして望みを持って神様に祈っているのでしょうか。幻のない民はほしいままに振舞う、と聖書にあります。目的や夢、希望がないと私たちは自分を制することなく好き勝手に生き、自分をだめにしてしまいます。そんな自分を変え、あなたのうちに望みがあるか、あなたの望みは何なのか、あなたはどうか生きるのかを今日探してみましょう。

聖書にベテスダの池のところにいた寝たぎりの男とイエス様が話している箇所があります。イエス様は彼に「どうなりたいか」を問います。しかし男は自分には誰もベテスダの池に入れてくれる人がいないから病気が治らないという質問とか合わない理由を述べます。あなたも神様から望みを聞かれているのに、できない理由をならべていませんか？また、もし今自分は艱難のなかにある、訓練を受けていると感じるならば、逃げずにそれを受け入れましょう。この訓練のときには間違えることがあってもいい、ここでどれだけ信仰をもって神様の計画に従って歩めるかのほうが大事です。自分と向き合い、相手と向き合い、どんな状況でも自分が以前の生き方を捨てて新しく変わることでどんな将来が待っているかを神様の前に出て望みましょう。そして信じて願ったならそれがすでに叶えられていると信じましょう。また叶わないときは、落ち込まずなにかを調整する必要が自分の中にあることを知しましょう。

■ ①望みの回復 発言と価値観

望みはあなたを元気にするものです。私たちは神様に求めるとき、今何をすべきかを与えてられます。そのとき大事なものは、自分の今まで生きたなかでの経験や価値観を捨てることです。私たちが神様の前に出るとき、あなたには今までの価値観でない新しいあなたの価値観を教えてください。それをどうするかにかかっています。もしあなたのうちにたった1%の悪い部分があってもそれがあなたの良いすべての部分を打ち消してしまうなら、あなたはそれを取ろうと思うでしょう。古い価値観とはそのようなもので、恐ろしいことにそれを持っているだけで、なにか嫌なことが起ると神様に願うことをやめさせ、望みを取り去り夢も希望も持たなくさせ、自分の全部がだめなようにさえ思わせます。しかし神様が伝えたいのは、もし今まで間違えていたのなら、今それを直せばいいということです。今まで当たり前と思ったことは当たり前でなく、そのときそのときのベストを選び保ちましょう。目に見えないことに望みを描きましょう。神様が言われる「どうなりたいか」という思いを意識して望みを持って行動してみましょう。

■ ②望んだら信頼する！！ 条件遂行

信頼するとは信じて頼るということですが、あなたは今まで誰かに頼んだ事柄を、頼んでおきながら結局自己

流に進めてしまった経験はないでしょうか。もしその相手が神様だったなら、神様が解決されようとしていたことをあなたが壊していたことがあるかもしれません。もしあなたが神様に祈り求め頼るなら、その答えが時に自分の気に入らないものであったとしても従わなければいけません。言うこと聞かないなら意味がありませんから、条件遂行しましょう。聖書に書かれている事柄も、もしあなたが従うならあなたに答えるというように、条件付きになっています。ですから、私たちも「せよ」と言われたことを信頼して行いましょう。

■ ③受け取る準備～方法を変える～

カナダの女性実業家であるミシェルさんの話。彼女は15歳で望まない妊娠をし、そこから人生が大きく変わります。両親との関係が壊れ学校も退学となり、自分を裏切った人々への復讐と自暴自棄によりずさんだ日々を過ごすようになったのです。しかしそのような中で1人の友が彼女のために祈り、教会に誘ってくれました。その結果、彼女は苦しみや許せない気持ちを癒され、親子の関係を回復し、素晴らしい男性と出会い結婚します。しかし夫婦で営む会社が成功するも結婚後わずか数ヶ月で夫は病に冒されます。彼女の生活は豪邸からワゴン車になり、ブランド物もすべて売り払いビニールバックになりました。信仰を持ってこのようなことが起るのか…彼女はそう思いましたがそのような中であっても神様を信じ祈ることをやめませんでした。すると彼女に神様は大丈夫と答えてくださいます。彼女は懸命に夫を看病しながら会社の立て直しを計ります。夫は天に召され葬儀のときでさえ会社を奪おうとする人も現れますが、彼女は夫と築いた会社と従業員を守るため、神様に祈って耐え抜きます。そして今、カナダで3位の会社となり女性実業家として活躍されています。そんな彼女のもとへ同じような状況の人たちがたくさん相談に来るそうです。そんなとき彼女は一人の友の祈りが自分を支えたことと、次のことを語ります。

「ワゴン車の中で暮らしていたとき、私の手提げはビニールのゴミ袋でした。今はルイヴィトンです。しかし大事なのはバックの中身です。人生にはいろいろなことが起ります。何が起るかは自分では選べません。しかしバックの中に何をを入れて持ち運ぶかは自分で選べます。私は昔も今も同じものを入れて持ち運んでいます。それは神への揺るぎない信仰と確かなる希望と無条件のアガペの愛です。これはもらったものです。」
クリスチャンの生き方はこのようなものです。問題があり乗り越えられないと思えるときはあっても、あきらめずにいれば必ず解決されます。あなたの心のカバンの中には何が入っていますか？希望ですか、それとも責任転嫁ですか。これからあなたの心に大切なものがいつもあるように、あなたが願っていることが今来てもいいように、望みをもっていつでも受け取る準備をしておきましょう。

まとめ

「主よ、栄えさせてください」とヤベツは祈りました。このように私たちは望みをもってどんなときでも「私はこうなりたい」と心に留めておく必要があります。もし今、艱難の中にあるならば喜びましょう。それは今までのやり方を変え、自分自身を変えるチャンスです。できない理由を並べるのではなく、良くなりたいたいと神様に望みましょう。そうして与えられている1日1日を大切に、神の時を刻んでいくことができるよう祈り、信仰によって歩みましょう。

(要約者:平澤 瞳)

(2月14日)